

若手会企画シンポジウム

「海の可能性－海水資源の有効利用，未来へ向けて－」を終えて

若手の集い企画会 長 秀雄*

去る6月5日に中央大学の理工学部キャンパスにおいて日本海水学会および海水学会若手会主催（共催：ソルト・サイエンス研究財団）のシンポジウムが100名以上の出席者で開催されました。当日は天気も良く、シンポジウムの開催と今後の若手会の発展をお祝いしているようでした。今回のシンポジウムは若手会の前身である「若手の集い企画会」によって企画されました。その際、どのようなシンポジウムを開催すべきなのか？ 若手らしいシンポジウムとは何か？ などシンポジウムの主意を問うような議題に多くの時間が費やされ、その結果として今回のシンポジウムとなりました。シンポジウムはそのタイトル（海の可能性－海水資源の有効利用，未来へ向けて－）にあるように未来に向けて海水資源の利用を考えたとき、どんな問題があるのか？ すでに実用化されているプラント（淡水化や製塩）と実用化を目指している資源回収技術には共通な技術的問題は存在するのか？ 今後、若い研究者や技術者同士が連携して、新しい技術の創出ができるか？ ということを考える良いきっかけになってほしいとの願いを込めて、基調講演と6件の話題を用意いたしました。講師の先生方には、今回のシンポジウムに対する若手会の気持ちを理解していただき、お忙しい中、貴重な講演をいただきましたこと、ここで改めて感謝いたします。ありがとうございました。

シンポジウムは、若手会を代表して松本幹事（千葉工業大学）が今回のシンポジウムの主旨を説明したのち、基調講演として塩事業センターの長谷川正巳先生に「わが国の海水資源利用の現状と将来」というタイトルで講演いただきました。その中では食料とくに水（仮想水）の自給率をキーワードに現状の日本における問題と総合海水利用の構想を示していただき、とても刺激的な講演でした。

その後、海水資源の利用法やその回収技術について次のような話題を提供していただきました。淡水化プラントの現状と問題を濱野利夫先生に、製塩プラントにおける効率的運転の可能性について瀧脇哲司先生に講演をいただき、すでに実用化されている海水資源回収プラントでの問題点を明確に示していただきました。後半は、海水希少資源の回収（大井健太先生）、深海微生物の未知なる世界（秦田勇二先生）、海底に存在するハイドレートスラリーの密度の計測技術（辻 智也先生）、海水深層水の水産分野における利用法（藤田大介先生）についてわかりやすく将来への展望を示していただきました。紙面の都合上、各先生か

ら頂いた話題の内容については割愛させていただきますが、とても興味深く、うかがっていてワクワクするような内容でした。詳しくは年会の講演要旨集にシンポジウム要旨がありますので、ご覧ください。講演終了後にはパネルディスカッションを若手会の正岡幹事（塩事業センター）を司会に開催いたしました。今回は時間の都合上、各講演者への会場からの質問は当日配布した用紙に記載いただき、その中から興味深い質問を若手会で選択し、講演者から回答をいただきました。その後、司会から長谷川先生が基調講演中に示した「海水総合利用プロセス」の私案を基にその可能性と技術的課題について各先生および会場から活発な意見交換がありました。時間が超過しており十分な議論に発



講演の様子1



講演の様子2

* 青山学院大学理工学部機械創造工学科（〒229-8558 神奈川県相模原市淵野辺 5-10-1）

展させることができませんでしたが、若手の技術者や研究者の連携のきっかけになる予感を残し、シンポジウムは閉会しました。終了後、回収したアンケートには「多分野の話が聞けてよかった」「一つ一つの話が興味深かった」などの回答があり、今回のシンポジウムは成功したのではないかと感じております。またアンケートの中には「若手の連携を期待する」「機動性のある部隊として若手会活動をさらに活発にしてほしい」などの若手会への期待をうかがわせるご意見もいただきました。今後は、若手会として

市村代表幹事（神奈川工科大）を中心に若手の技術者や研究者の連携を深め、共同してなにか新しい技術が創生できる会になるように努力するつもりであります。今後もシンポジウムや見学会などを企画する予定でありますので、その際は、ご協力・ご参加の程、よろしくお願いいたします。最後に、今回のシンポジウムは企画の段階より様々な方々のご意見やご協力をいただきましたこと、ここに記して感謝いたします。



パネルディスカッションの様子